

現在93歳で世界のトップを走るポルトガル映画の巨匠
マノエル・デ・オリヴェイラ監督の代表作
カラーレのための特別上映が実現。



マノエル・デ・オリヴェイラ監督
製作/パウロ・ブランコ
脚本/マノエル・デ・オリヴェイラ
撮影/エルソ・ロケ
音楽/アレハンドロ・マッソ他

ルイス・ミゲル・シントラ
デオゴ・ドーリア
ミゲル・ギリエルメ
ルイス・ルカス 他

ノン

あるいは支配の虚しい栄光



世界の名画を見る会 vol.16 企画・構成 高野悦子



高野悦子

- 講演・(14:00~14:45)
「ポルトガルとわたし」
- 上映作品・(15:00~16:50)
「ノン、あるいは支配の虚しい栄光」
(ポルトガル・スペイン・フランス合作/1990年/カラー/110分)

■お問い合わせ

財団法人 黒部市国際文化センター
TEL (0765) 57-1201

■プレイガイド

黒部	カラーレ メルシー ロイヤルバリー黒部	☎(0765)57-1201 ☎(0765)54-2221 ☎(0765)54-1000
魚津	新川文化ホール 魚津サンプラザ	☎(0765)23-1123 ☎(0765)24-3030
入道	コスモホール コスモ21	☎(0765)72-1105 ☎(0765)74-9100
宇奈月 朝日	宇奈月国際会館 アスカ	☎(0765)62-2000 ☎(0765)82-2000
富山	インフォマート [市民プラザ] [CIC駅前店]	☎(076)491-0110 ☎(076)444-7013
高岡	高岡大和	☎(0766)27-1774

2001

5月13日 日

開場 13:30

開演 14:00

黒部市国際文化センター コラーレ(カーターホール) 入場料/全席指定 1,500円

ノン、あるいは支配の虚しい栄光

スタッフ

製作：パウロ・ブランコ 脚本・台詞・監督：マノエル・デ・オリヴェイラ 撮影：エルソ・ロケ
美術：ルイス・モンテイロ、マリア・ジョゼ・ブランコ 衣裳：イザベル・ブランコ
音楽：アレハンドロ・マツソ 編集：マノエル・デ・オリヴェイラ、サビーヌ・フラネル

キャスト

ルイス・ミゲル・シントラ、ディオゴ・ドーリア、ミゲル・キリエルメ、ルイス・ルカス、
アントニオ・セケイラ・ロベス、マテウス・ロレナ

マドラゴア・フィルム=トルナソル・フィルム=ジェミニ・フィルム=SGGC1990年作品/カラー/110分
ポルトガル公開1990年10月8日



現代ポルトガルの最後の植民地戦争を背景にポルトガルの過去の戦争と虚しい栄光の歴史を描く、巨匠オリヴェイラ監督の代表作。

マノエル・デ・オリヴェイラ監督は現在93歳ながら今なお現役で、毎年のように新作を作り続けている、世界的にも希有な存在である。

「ノン」は、そのオリヴェイラ監督の代表作だが、日本では一度きりしか上映されていない“幻の名作”で、今回の上映はカラーレだけに与えられた特別な機会であり、大きなスクリーンと極上のサウンドで鑑賞できることは、日本全国でもまたとないビッグチャンスである。

マノエル・デ・オリヴェイラ監督の「カンバイシュ」に続く作品で、紀元前2世紀のルジタニアの英雄ヴィリアトの死、1475年のトロの闘いで敗北と国王アフォンソ五世の死、1578年のアルカサル・ケビルでの壊滅的な敗北とセバスチャン国王の戦死を通して、ポルトガルのむなしい栄光の歴史を描き出している。かつてルイス・デ・カモンイスが『ウス・ルジアダス』(1512)の中で謳いあげたものを、オリヴェイラ監督が自分なりに映像によって表現しようとしたものとも解される。室内の固定ショットが支配的であった<挫折した愛の四部作>から一転して、この作品では屋外シーンが基調となっている。

「挫折した愛というテーマは、絶対的なものを夢想する女性的な問題の典型であるのに対して、敗北というテーマは男性に固有の問題である」と語るオリヴェイラ監督の、死と破滅に対する執拗なまでの追求が貫かれているといえよう。

1974年、春。アフリカの植民地戦争の前線で、不毛な戦争に対する不平不満がつのった兵士達から議論が起こる。居合わせたカブリタ少尉は、ポルトガルの戦いの歴史を紐解いてゆく――。

紀元前2世紀、まだポルトガルではなくルジタニアと呼ばれていた地方に侵攻してきたローマ軍に対して、智勇にたけたヴィリアトの指揮の下、住民たちは勇敢に抵抗した。力では勝てないとみたローマ軍は、ヴィリアトの部下を買収し暗殺させた。

その後ポルトガル王国は、十字軍の時代にヨーロッパで最初の民族国家として形成されていった。歴代の国王はイベリア半島の統一と北アフリカのムーア人征服を目論む。15世紀後半、アフォンソ五世は、スペインの貴族と謀ってカスティリヤの王位を狙ったが、トロの戦いに敗れその野望ははかなく消えた。その後ジョアン二世は、息子のアフォンソ王子とカスティリヤのイサベラ王女を政略結婚させたが、その直後に王子は落馬して死去……それは平和的な手段によるイベリア統一王国の野望の終焉を意味した。

ポルトガル史上、最も手痛い敗戦は16世紀後半、セバスチャン王によるモロッコ遠征の強行であった。アルカサル・ケビルで壊滅的な敗北を喫し、国王も戦死した。

海洋帝国を目指したポルトガルの野望は、侵略という名の「人間性の否定」へ向かいはしたが、それは同時に、新世界への開拓の歴史でもあった。

カブリタ少尉はその歴史を回想しながら、支配しようとすることの無益さを慨嘆する。翌朝、出発した小隊はゲリラの奇襲を受け、少尉は重傷を負う。昏睡状態の中で彼が見たものは……。

